

平成25年度日本食生活協会「南・賀屋賞」を受賞

只見町食生活改善推進員会（会長 川合はる子氏・会員23名）は、平成25年度第44回「南・賀屋賞」を受賞されました。受賞式は10月11日に開催された「第44回全国食生活改善推進員協議会」（鹿児島市民文化ホール）の席上で参議院議員 山東昭子さんより賞状、盾及び副賞（賞金10万円）が手渡されました。

只見町の受賞は県内では、福島県食生活改善推進連絡協議会、二本松市食生活改善推進員会安達支部、喜多方市食生活改善推進員会に継ぐ受賞となり、町の部では県内初の受賞となりました。



▲鹿児島県での受賞式の様子



▲目黒町長へ受賞を報告する川合会長(右)

「南・賀屋賞」とは

日本食生活協会の創設に尽力した故南喜一副会長と、協会の発展に貢献した故 賀屋興宣会長の遺志に基づき設けられた賞で、食生活の改善活動や地域住民の健康づくりに尽力された団体に贈られる食生活改善関係では最高の賞です。

道の駅検討懇談会の活動について

道の駅検討懇談会は10月2日、11日、30日の3回に渡り懇談会を実施しました。その中で、只見型「道の駅」を考えるにあたり、交通量そのものが少ない只見町では「道の駅」を目的地として来てもらえるだけの魅力あるものにする必要があるという意見が出されました。また、その魅力はどこにでもあるようなものではなく、商品も含めて他の道の駅には無い突出した魅力が必要である事、また、道の駅を考える前にまず町の価値を仕事とお金に変えていくための仕組みづくりが最も重要であり先に決めるべき事だという考えも懇談会の中で示されました。

今後の道の駅検討懇談会の活動としては、只見町ならではの「価値」（大事にしたいもの）のや自慢したいもの）を見つけ、それをどのように魅力あるものにしていくことが出来るかを12月までさらに2回程度の懇談会を実施し議論を交わし、先進地研修などを実施して只見型「道の駅」構想をまとめていく予定となっております。



▲活発な意見が飛び交う懇談会

災害に備えて

発電機、投光器を避難所へ配備

町では災害時に備えて、発電機37台と投光器7台を電源立地地域対策交付金事業を活用して今年度購入いたしました。発電機は各地区の避難所へ、投光器は地区センター、小・中学校などの長期避難所に配備する事とし、10月31日に町民体育館ピロティに各集落の代表者などにお集まり頂き発電機メーカーによる取扱い説明が行われた後に受け渡しを行いました。



▲操作説明を熱心に聞く集落の代表者など

3年ぶりの運行

只見・金山町民号お座敷列車運行

平成23年7月新潟・福島豪雨災害により中止となつていました只見町民号が只見・金山町民号として3年ぶりに運行されました。この事業はJR東日本の主催事業で10月18日に只見駅を発し、鉄道・バス・フェリーを乗り継いで佐渡を観光する旅として企画され只見町40名、金山町40名の計80名が参加しました。列車は床が畳でゆったりくつろげる専用車両となつており、景色を見たりカラオケを



▲お座敷列車内のお様子

したりしながらそれぞれの参加者が旅を楽しみました。また今回は只見・金山町民号として初めての運行でしたが、只見町民と金山町民が一緒に旅をする事で交流を深め、両町の町民は只見線全線開通を目指す事を誓いました。町民号は只見線利用促進事業として次年度以降も実施予定となっております。



▲参加者で記念撮影

教育委員に辞令交付

只見町議会9月会議において教育委員の選任について同意がなされ、新教育委員に梁取の菊池裕子さんが就任しました。

菊池さんの任期は、平成25年10月1日から平成29年9月30日までとなっています。就任にあたり菊池さんは「只見町の教育発展の為に頑張っていきたいと思っております」と抱負を話されました。



▲新教育委員に就任された菊池裕子さん